

研究推進委員会通信

令和元年11月6日

11月1日に白鳥中学校で公表会が実施されました。公表会は3年間の授業研究の成果の発表の場ということで、郡上市内の小・中学校から多くの教員が参加し、各教科で実施される研究会で自己研鑽を積んでいました。本校からも10名の教員が参加しました。白鳥中学校の研究テーマはこれまでも通信で示したように「主体的、対話的で深い学び」を具現化するための「チャレンジタイム」と「小集団学習」そして「中心となる授業」です。本校の在籍生徒の約55%を占める白鳥中学校の研究テーマをふまえて授業改善を実施することは、より効果的な授業改善につながると考え、参加された方からいただいたアンケートを全職員で共有したいと思います。



参観授業の様子（本校の教員も3年間で生徒の変容を目で追う姿があたり前になりました）



異校種の教員との意見交換

他の教員に知ってもらいたいこと・授業改善として取り入れたい視点

- ・先生からの質問の仕方ひとつで生徒の反応が良くも悪くもなり得ること（教員の発問力をつけたい）
 - ・グループごと、ペア同士で教え合いや考える時間を確保すること。
 - ・落ち着いて問題に取り組む時間を作りたい（解説したいという欲を我慢する）。
 - ・考えさせるような発問をしている。
 - ・思考・表現というのを、授業を通して取り入れていきたい。
 - ・グループ活動で一对一の会話で終わってしまう所を、さらに他の生徒が補足できるように話し合いを進めていました。一人の意見がさらに深い学び（意見や考え）となると思います。
 - ・良い意見をもっている生徒の意見を紹介して全員で共有していることが良いと思った。
 - ・グループで意見交流の時間を作りたいと思いました。
 - ・本校の生徒の中で推薦入試を利用して国公立大学をねらう生徒が増えていくことで、1つのことを深掘りしていくような学習が受験につながるような状況を生み、今回の中学校の取り組みを取り入れやすい環境になる。
- ※グループ活動はあくまで学習形態ですので、その形態にこだわるよりも、どうやって生徒を思考させるのか、その思考を仲間とシェアして深めていかせるかが重要だと思われます。つまりは、教員の「発問力」が重要なのではないのでしょうか。若手教員の皆さんには、ぜひ授業をマネジメントする力をつけてください。これには、自分自身を客観的にみなくてはなりません。つまり教員側のメタ認知も求められているということです。

「探究」をテーマに第3回授業研究会（公開授業）を実施

11月18日（月曜日）13:45～16:00 視聴覚室にて、ビジネスコースが取り組んでいる「クエストエデュケーションプログラム」の中間発表を実施します。本校が実施しているPBL（課題探究型学習）も6年目となり、来年度の地域探究などの新カリキュラムへと広がりを見せています。部分参加でも可能ですので、積極的に参加をしてください。裏面に改訂した探究の構想図（昨年度の改訂版）を掲載します。

